

MRC微化石研究集会2014開催報告

MRC2014微化石研究集会実行委員会

2014年2月28日から3月3日にかけて、独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）横浜研究所（横浜市）にてMRC微化石研究集会2014（以下、MRC2014）を開催した。参加人数は期間を通して総勢60名となり、このうち大学院生を含む学生が18名と約1/3を占め、例年より年齢層が低いのが特徴的であった。

初日の2月28日はJAMSTEC横浜研究所の2F会議室で午後から開催された。開催にあたり、日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）が、地球掘削科学の推進や研究者間の連携強化を図り、地球掘削科学に関する研究計画・連携・支援・啓蒙を行っている組織であること等の紹介を行った。

2日目の3月1日は5件の招待講演・ポスター発表を含む研究成果発表が行われた。また夜には杉田駅周辺にて懇親会が行われ、それぞれの交友を深めた。

3日目の3月2日には、5つの一般講演と、若手研究者2名（小沢広和氏（日本大学）、久保田好美氏（国立科学博物館））をファシリテータとする討論が行なわれた。参加者による微化石の普及や教育現場に対する問題点について、熱心な議論が行われ、参加者一同、微化石教育への関心の高さが改めて認識された。総合討論および研究集会後のビジネスミーティングでは、共催者である東北大学の西弘嗣氏から、今後のIODP航海への積極的な参加が促されるとともに、乗船経験者から、学生がIODP航海に参加することのメリットなどの発言があった。

3日間における講演数は、口頭発表は26件（招待講演5件を含む）、ポスター発表11件の合計37件であった。5件の招待講演のうち3件は近年実施されたIODPの航海報告とした。さらに一般講演、ポスター発表において3件の発表があった。以下に招待講演3件と、一般発表の概要を記す。

内村仁美氏（熊本大学）によるExp. 344・コスタリカ沖浸食型沈み込み帯における地震発生過程の解明2（CRISP A-2）では、航海の概要と採取されたコアの底生有孔虫層序に加え、造構運動に伴う古水深変化を底生有孔虫の生態を使って復元した結果が紹介された。

松井浩紀氏（東北大学）ほかによるExp. 342・北大西洋ニューファンドランド沖掘削による古環境変動の解明では、新生代のきわめて良質な炭酸塩堆積物の採取の成功や、大西洋のCCDの変遷の太平洋との非連動性など、航海中に得られた新知見が紹介された。

須藤斎氏（名古屋大学）によるExp. 341・アラスカ沖テクトニクスと堆積史では、コルディレラ氷床の変動史を記録していると期待できる高速で堆積した堆積物の採取や、北太平洋でもっとも高緯度における酸素同位体比カーブの確立に貢献するコアが紹介された。

一般講演では、板木拓也氏（産業技術総合研究所）による、Exp. 346・日本海、東シナ海掘削による急激なアジアモンスーン変動の発達とヒマラヤ・チベット

隆起の関係解明では、これに関連した鮮新世-更新世遷移期の微化石群集の変化と、グローバルな寒冷化および構造運動との関連性の紹介があった。

本山功氏(山形大学)らによる、Exp. 343・日本海溝掘削計画J-FASTでは、C0019掘削コアの放射虫化石層序の結果が報告され、これにより断層運動による層序の逆転や、海洋プレート内不整合・ハイエイタスの存在が認識された。

ポスター発表では、上栗伸一氏(茨城大学)による東赤道太平洋掘削コア(ODP1241)による過去1200万年間の赤道循環の変遷史が示され、新生代の太平洋サーモクラインの成立過程が紹介された。

すべての講演の終了後、参加者全員の投票により、優秀口頭発表賞、優秀ポスター賞を決定し、表彰した。該当者は以下の二名である。

優秀口頭発表賞：竹本真佑里氏(東北大学理学部4年)

優秀ポスター賞；根岸拓真氏(山形大学大学院理工学研究科)

また口頭、ポスター発表でとくに高い得票があった以下の3名の参加者に対し、若手奨励賞を与えることとした。(●はIODP関連成果)

●内村仁美氏(熊本大学大学院修士2年)

糸嶺梢氏(横浜国立大学大学院修士2年)

錦織春菜氏(千葉大学理学部4年)

最終日の3月3日には希望者のためのオプション企画として、JAMSTEC横須賀本部にて、将来の研究者育成に向けた微化石の解析技術および現生研究への導入を促すためのショートコース(飼育実験研究についての教育と、それに関する基礎的実験)を実施した。参加者は学生を中心に合計10名となり、内容は、1) 生きている浮遊性有孔虫、珪藻の飼育と観察(担当：木元克典、倉沢篤史)、珪質微化石(エブリディアン、珪質鞭毛藻、フェオダリア)のプレパラート観察(担当：小野寺丈尚太郎、池上隆仁)、2) 遺伝子抽出・増幅(担当：土屋正史)であった。15時までにはすべてのスケジュールを終了し、閉会した。

以上

(文書作成：独立行政法人海洋研究開発機構 木元克典)